

みずほハイブリッド証券ファンド2016-10（為替ヘッジあり） （愛称：明日へのとびら）

設定来の運用状況について

2020年7月14日

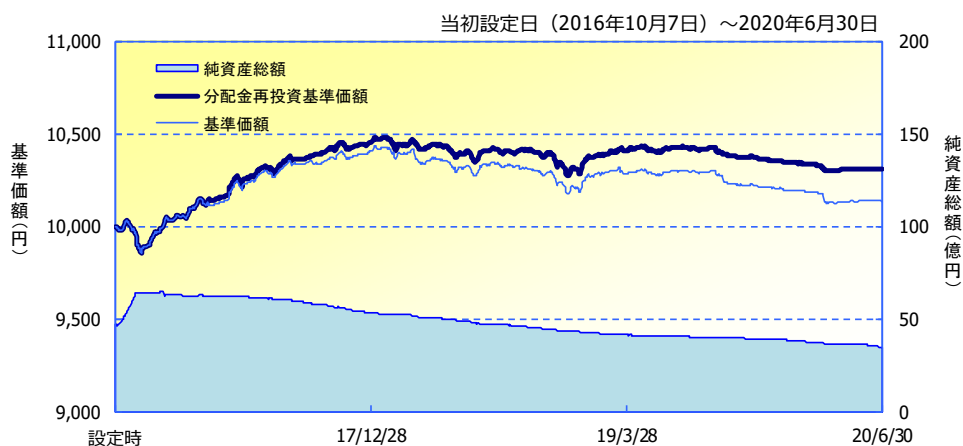
平素は当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。当ファンドの運用状況をご報告いたします。

■ 基準価額・純資産の推移

2020年6月30日現在

基準価額	10,133 円
純資産総額	34億円

期間別騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-0.0 %
3カ月間	+0.0 %
6カ月間	-0.4 %
1年間	-1.1 %
3年間	-0.1 %
5年間	-----
年初来	-0.4 %
設定来	+3.1 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

■ 主要な資産の状況（2020年6月30日現在）

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国債券	2	10.0%
コール・ローン、その他※		90.0%
合計	2	100.0%

※外貨キャッシュ、経過利息等を含みます。

*当ファンドが投資対象とするハイブリッド証券（劣後債、優先証券）は、外国債券として表示しています。

通貨別構成		合計100.0%
通貨	比率	
日本円	100.0%	
英ポンド	0.0%	
米ドル	0.0%	
ユーロ	0.0%	

※保有する外貨建て資産の比率から、為替予約取引の比率を差し引いた実質的な比率を表示しています。外貨建て資産の値動きによってはマイナスとなる場合があります。

ポートフォリオ特性値	
直接利回り(%)	6.9
最終利回り(%)*	3.5
修正デュレーション(年)*	0.2

*次回コール日を基に算出しています。

格付別構成		合計100.0%
格付別	比率	
AAA	---	
AA	---	
A	---	
BBB	100.0%	
BB	---	
B以下	---	

※格付別構成の比率は、ポートフォリオに対するものです。
※格付別構成については、R&I、JCR、Moody's、S&P、Fitchの格付けのうち最も高いものを採用し、算出しています。

主要な資産の状況（2020年6月30日現在）

組入上位10銘柄				合計10.0%
銘柄名	通貨	利率(%)	次回コール日	比率
AMERICA MOVIL SA de CV	英ポンド	6.375	2020/09/06	6.2%
Enel SpA	英ポンド	7.75	2020/09/10	3.8%

※比率は、純資産総額に対するものです。

＜参考＞マザーファンドの通貨別構成	
通貨	比率
英ポンド	97.0%
日本円	2.8%
米ドル	0.1%
ユーロ	0.1%
合計100.0%	

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対するものです。

基準価額の変動要因分解

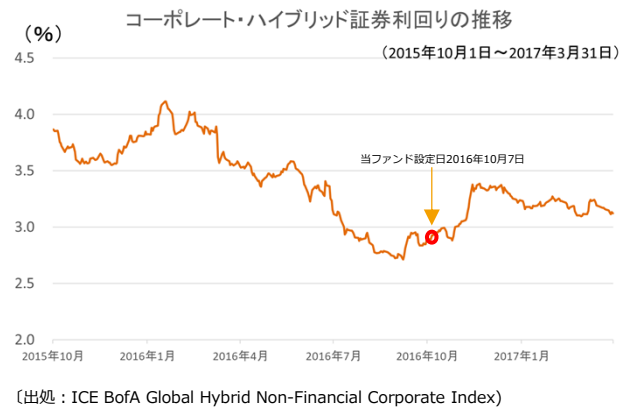
基準価額の月次変動要因分解		基準価額の設定来変動要因分解	
2020年6月末	10,133 円	2020年6月末	10,133 円
2020年5月末	10,135 円	設定時	10,000 円
変動額	▲2 円	変動額	133 円
債券価格要因	▲2 円	債券価格要因	▲725 円
債券インカム要因	6 円	債券インカム要因	1,596 円
為替要因(含む為替ヘッジコスト／ヘッジプレミアム)	▲0 円	為替要因(含む為替ヘッジコスト／ヘッジプレミアム)	▲84 円
運用管理費用要因、その他	▲5 円	運用管理費用要因、その他	▲478 円
分配金要因	0 円	分配金要因	▲175 円

基準価額の設定来変動要因分解				
期間	設定時～ 2017年6月末	2017年6月末～ 2018年6月末	2018年6月末～ 2019年6月末	2019年6月末～ 2020年6月末
変動額	287 円	▲13 円	25 円	▲166 円
債券価格要因	82 円	▲325 円	▲263 円	▲220 円
債券インカム要因	342 円	505 円	522 円	226 円
為替要因(含む為替ヘッジコスト／ヘッジプレミアム)	▲9 円	▲4 円	▲48 円	▲23 円
運用管理費用要因、その他	▲103 円	▲139 円	▲137 円	▲99 円
分配金要因	▲25 円	▲50 円	▲50 円	▲50 円

※変動要因分解は、簡便法に基づく概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、その他には、設定・解約の影響などがあります。表示桁未満の四捨五入等の関係で各欄の数値の合計が変動額の数値と合わないことがあります。

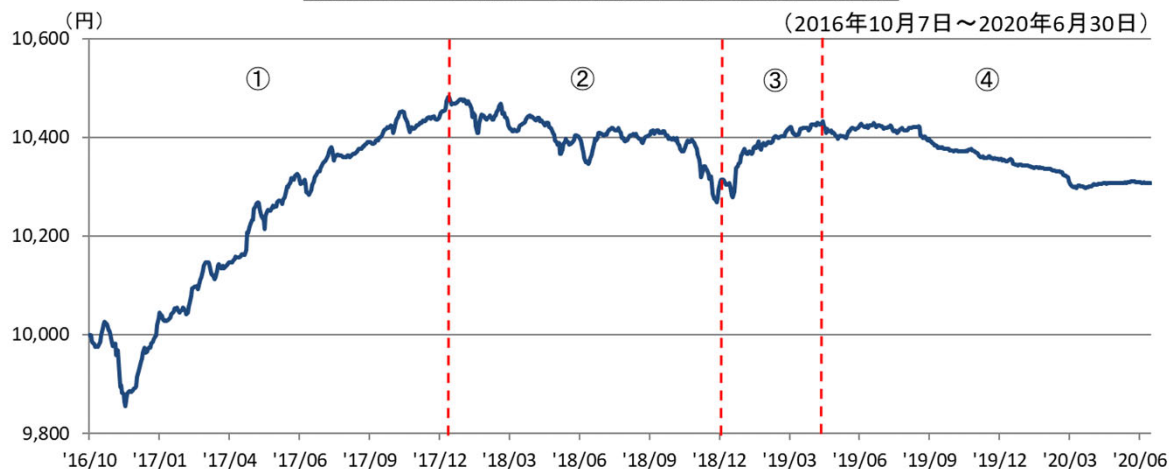
■ 設定前の市場環境

2016年3月から当ファンド設定日の10月7日までは、世界的にリスク資産全体が上昇しました。6月にはECB（欧州中央銀行）の社債購入プログラムが開始されましたが、コーポレート・ハイブリッド証券の発行体の多くは購入対象となる無担保シニア債を発行していることから、コーポレート・ハイブリッド証券市場にとってもスプレッドの縮小要因となりました。



■ 設定来の市場環境

設定来の分配金再投資基準価額の推移



① 設定～2017年12月：ECBの政策要因等により、全般的に堅調な推移

コーポレート・ハイブリッド証券の証券価格は、ドイツ国債の金利上昇の影響を受け一時的に下落する局面がありましたが、ECB（欧州中央銀行）が実施した資産購入プログラムの効果や、欧州各国の国債金利が過去に比べると低位で安定推移したことにより、コーポレート・ハイブリッド証券の投資魅力が相対的に評価されたことなどから、当ファンドの基準価額は堅調に推移しました。

② 2018年1月～2018年12月：世界景気減速懸念や、英国EU離脱をめぐる不透明感等から下落

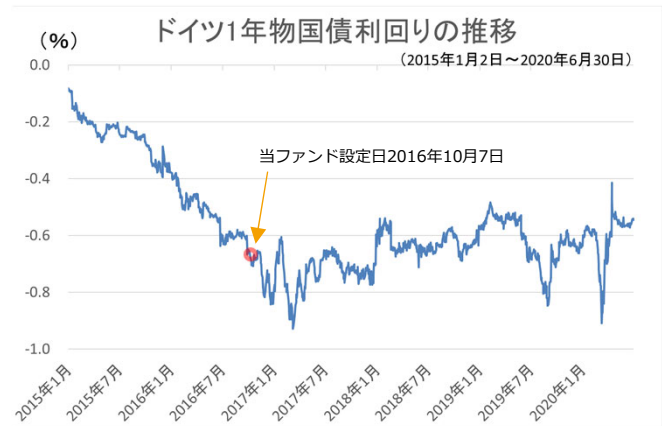
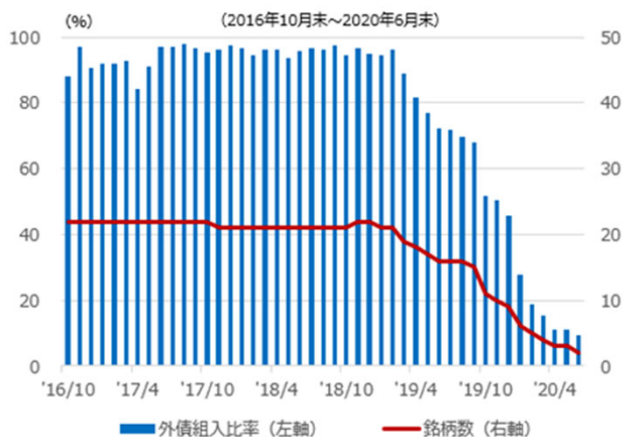
コーポレート・ハイブリッド証券市場の下落を受けて当ファンドの基準価額も下落しました。特に、2018年9月以降はトルコと米国間の関係悪化が嫌気されたことなどからリスク資産全体が弱含み、同市場は下落しました。さらに、米国企業の第3四半期決算が市場予想を下回ったことなどから、市場センチメントが悪化したこともマイナス要因となり、当ファンドの基準価額は下落しました。世界的な景気の減速懸念等から主要国の国債金利が低下したものの、企業収益への懸念が悪材料視されたことに加え、英国のEU（欧州連合）離脱をめぐる議会承認の難航等を背景に、社債のスプレッド拡大に伴い、コーポレート・ハイブリッド証券のスプレッドも拡大しました。

③ 2019年1月～2019年4月：国債金利の低下や、投資家心理の改善等により堅調に推移

世界景気の減速懸念の高まりにより国債金利が低下したことや、米中貿易協議の進展による投資家心理の改善等により株価が反発したことなどをを受けて、スプレッドが縮小したことから、コーポレート・ハイブリッド証券市場は堅調に推移しました。

④2019年5月～2020年6月：収益が見込まれる投資対象がなく、コーポレート・ハイブリッド証券の組入比率低下により下落

当ファンドが保有するコーポレート・ハイブリッド証券は当初想定通りに繰上償還が進みました。一方でコーポレート・ハイブリッド証券が満期もしくは繰上償還した後の再投資において、③の期間における国債金利の低下・スプレッドの縮小により、諸コスト（為替ヘッジコスト含む）控除後の収益を確保できると見込まれる健全な投資対象がありませんでした。そのため、当ファンドにおけるコーポレート・ハイブリッド証券の組入比率は、2019年4月中旬までは90%台半ば以上を維持してきましたが、6月下旬に75%程度まで低下し、2020年1月下旬には30%を割り込み、6月末現在では10%程度となっています。インカム収益の低下等に伴い、基準価額は緩やかな下落が続きました。



2020年6月末時点の基準価額は10,133円、既払い分配金総額は175円となっています（設定から2020年6月末までの年平均収益率を簡易的に算出すると0.83%となります）。

今後の見通し

満期償還が近づくにつれて、利息収入および保有証券の価格変動から得られる収益は低下しており、諸コスト（為替ヘッジコスト含む）控除後にプラスの利回りを確保することが困難な状況となる可能性が高いと考えられます。

<運用管理費用（信託報酬）の一部引き下げについて>

当ファンドで組み入れているハイブリッド証券が順次償還を迎え、その償還金の再投資先として投資家の利益となるような適切な投資対象が存在しないと判断せざるを得ない状況が続きました。このため、証券を組み入れない（運用する手段がない）部分については、2019年5月より運用管理費用（信託報酬）の一部引き下げを行っています。ただし、可能性は極めて低いと思われますが、証券の組み入れが再び高位となった場合は、運用管理費用（信託報酬）を変更する場合があります。

Ⅰ ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- 世界のハイブリッド証券等に投資し、高利回りの獲得を追求することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

ファンドの特色

1. 世界の企業が発行するハイブリッド証券等に投資します。
 - ◆ ハイブリッド証券とは、債券と株式*の性質を併せ持つ（ハイブリッド）証券であり、劣後債および優先証券があります。
 - *株式と連動して証券価格が変動するものではありません。
 - ◆ 一般に国債や普通社債と比較して、信用リスクが高いことやハイブリッド証券固有のリスクなどにより、利回りが高いという特徴があります。
 - ※ハイブリッド証券固有のリスクには、法的弁済順位が劣後するリスク、繰上償還延期リスク、利払繰延リスクなどがあります。
 - ◆ 世界の企業には、金融機関（除く保険）を含みます。金融機関については G-SIFIs に指定されているものとします。
 - ◆ 証券の格付けは、取得時において投資適格*の格付けを有する銘柄を中心とします。
 - なお、利回り水準や流動性を加味した上で、投資適格未満の格付けを有する銘柄にも投資します。
 - *ムーディーズ（Moody's）で Baa3 以上または S&P グローバル・レーティング（S&P）もしくはフィッチ・レーティングス（Fitch）で BBB- 以上
 - ◆ 信託期間内に満期償還される銘柄および繰上償還や買入消却等が見込まれる銘柄に投資します。
 - ※組入銘柄の償還や買入消却等に伴い再投資する際は、普通社債または先進国の国債に投資することがあります。
 2. 運用は、アムンディ・UK・リミテッドが行ないます。
 3. 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。
 - ※為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
 - ※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
 4. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
 - マザーファンドは、「コーポレート・ハイブリッド証券マザーファンド《2020-09》」です。
- ※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

Ⅰ 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「ハイブリッド証券の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「ハイブリッド証券固有のリスク（劣後リスク（法的弁済順位が劣後するリスク）・繰上償還延期リスク・利払繰延リスク）」、「公社債の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「特定の業種への集中投資リスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※ハイブリッド証券に関する規制や基準の変更等がハイブリッド証券市場に大きな影響を及ぼす可能性があります。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	ご購入の申し込みはできません。	-
信託財産留保額	0.3%	換金に伴い必要となる費用等を賄うため、換金代金から控除され、信託財産に繰入れられる額。換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.408% (税抜 1.28%) 以内	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

加入協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

みずほハイブリッド証券ファンド2016-10（為替ヘッジあり）（愛称：明日へのとびら） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○	○		○
みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第34号	○	○	○	